

# 地方都市視察報告書

文教子ども家庭委員会

1 実施日 令和元年11月7日(木)

2 視察地 広島県福山市立城東中学校

## 【市の概要】

(1) 面積 518.14km<sup>2</sup>

(2) 人口・世帯数

(令和元年9月末現在)

○人口 468,812人

○世帯数 210,435世帯

(3) 福山市は、広島県の東部に位置する中核市であり、広島県内では広島市に次ぎ2番目となる人口約47万を擁する。粗鉄生産量が日本一であることを筆頭に重工業が栄える工業都市である。臨海工業都市化を進め、瀬戸内海の経済・文化・交通の要衝の都市として発展している。また、市域は中国山地(神石高原)・福山平野・芸予諸島(備後群島)などから成り、山陽自動車道・山陽新幹線・山陽本線・福塩線・井原線などが通っており、福山港を擁するなど交通の要衝でもある。古くから環境の変化に応じて様々な業を起こしてきた歴史があり、起業精神の高い地域とされている。そのため、都市人口の割に上場企業を含む多くの大手企業を擁しており、中小企業や大企業の研究開発拠点も集積している。



3 視察項目・内容

不登校対策の取り組みについて

4 視察参加者

## 【委員】

おぐら利彦委員長

沢田あゆみ副委員長

三沢ひで子委員

小野裕次郎委員

大門さちえ委員

よだかれん委員

野もとあきとし委員

桑原ようへい委員

鈴木ひろみ委員

## 【随行】

議会事務局議事係

黒木 明子

仙崎 雄介

## 5 視察結果・所感

福山市では、長期欠席児童生徒数が増加傾向にあることから、不登校対策として学校内に教室以外の専用教室（通称「きらりルーム」）を設置し、不登校になっていたり、負担を感じながら通学している児童生徒を対象に、安心して過ごせる居場所づくりの取り組みを行っている。

今回の視察では、福山市内で本取り組みを実施している、福山市立城東中学校を視察した。この「きらりルーム」は各学校で独自の名称を付けており、当校では「ふれあいルーム」と呼んでいる。現在は、全校生徒 436 名のうち、22 名の生徒が利用しており、生徒自身が登校時間や学習内容は各自で目的をもって決めている。また、ICTを使い、教室の授業の様子をふれあいルームでリアルタイムに見ることができるようになっており、教室の様子が気になっている生徒にも対応している。

これまでの不登校対策では、児童生徒を教室に戻すことが目標とされていた一般的な考え方を見直し、児童生徒一人ひとりに合った対応を行うことが非常に大事であることを学んだ。ふれあいルームでは、子どもの意思を尊重し、児童生徒本人が教室に戻りたくなったら戻れるようなケアを行い、家庭と学校をつなぐ居場所づくりを目指している。そのため、ふれあいルームの担任は、児童生徒一人ひとりの声を聴き、多様な教育やケアを行うことから、経験豊富な指導力の高い教員を専任で配置している。この取り組みを契機に、学校全体として、生徒の目線に立って、生徒にとっての居場所となっているかという視点で教育活動全体に取り組んでいることが印象的であった。新宿区においても、非常に参考になる取り組みであり、今後の教育活動に活かせると感じた視察であった。

## 6 主な質疑項目

- (1) きらりルーム（ふれあいルーム）の取り組み及び生徒の反応について
- (2) 教員の負担や反応について
- (3) 保護者への協力や連携について
- (4) 不登校といじめの関係性について
- (5) 指導主事の人員体制について
- (6) 民間フリースクールとの連携について
- (7) ソーシャルスクールワーカーとの連携や家庭訪問について
- (8) 長期欠席児童生徒が多い学校の理由について

## 7 その他

### 【共同視察者】

教育委員会事務局教育指導課長 長田 和義